

図書館だより

84

柳沢図書館 シニアコーナーをリニューアルしました!


柳沢図書館にあるシニアコーナーでは、より充実したセカンドライフのための情報を提供しています。今年、コーナー開設から10年が経過したのを機に分類や資料収集の見直しを行い、快適で心配のない生活をサポートするための情報を、さらに手取りやすいようリニューアルしました。また、コーナーの案内がしおりになったものを、市内各図書館、高齢者支援課窓口にて配布しております。



西東京市発行の行政資料やリーフレット、地域のチラシ等の配布物も以前より充実しています。

◀図書館ホームページでもコーナーを紹介しています。

シニアコーナー新分類

<p>シニア ギョウセイ</p>	<p>介護保険や認知症等についての行政資料</p>	 <p>シニアコーナー新刊 (行政・健康・住まい)</p>	<p>シニア カケイ</p>	<p>年金や定年後の家計についての資料</p>
<p>シニア ケンコウ</p>	<p>病気やフレイル予防についての資料</p>	 <p>シニアコーナー新刊 (介護・家計・終活)</p>	<p>シニア スマイ</p>	<p>高齢者施設や家のリフォームに関する資料</p>
<p>シニア カイゴ</p>	<p>介護技術や介護食等、介護に関する資料</p>	 <p>シニアコーナー新刊 (介護・家計・終活)</p>	<p>シニア シュウカツ</p>	<p>遺言の書き方や相続等、終活に関する資料</p>

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

※今回のにんにん西東京は見開きです。P5 から読み始めてください。

迅速図・地形図

西南戦争で戦闘用地図の必要性を痛感し、陸軍参謀本部が実施した日本初の広域測量により、明治初期の1880年から1886年にかけて、関東平野、房総、三浦半島の「第一軍管地方二万分一迅速測図原図」が作成されました。当時陸軍は、幕府陸軍が範としていたフランス軍制を引継ぎ、地図においても美しく彩色が施されたフランス式で作られていて、資料名は、「明治前期測量2万分の1フランス式彩色地図」となっています。図書館が所蔵する復刻版を見ると、当市が含まれる地図の余白には、青梅街道分岐点の柳沢庚申塔と、関前の五差路が描かれています。

軍制全般がドイツ方式に移行されると、迅速図原図も一色刷り図に書き直されて刊行されました。1880年測量迅速測図「田無町」はその後、「吉祥寺」と名称が変わり、現在は、国土地理院で1枚もの二万五千分の一地形図として改定刊行されています。二万五千分の一地形図「志木」と合わせて当市全域となります。夏休みの課題解決のため、多くの方がこの地図を目的に来館されています。現在、国土地理院のホームページでは地図類の検索・閲覧ができます。

『明治前期・昭和前期東京都市地図 全4巻』（柏書房）は明治前期、昭和前期に作成された地形図と現行地形を比較対象できるよ

う構成した図書で、年代を追って土地の変化が分かります。また、年代ごとの凡例も併せて見やすく拡大編集されています。

住宅地図

出版年の古い資料として、『商工住宅名鑑田無市1969』、『全航空住宅地図帳田無市1972』、『全航空住宅地図帳保谷市1972』等があり、住居表示も居住者名も一戸ごとに手書きで描かれた手作り感の強い資料です。

『ゼンリン住宅地図田無市1975』、『ゼンリン住宅地図保谷市1981』は、所蔵する最も古いゼンリンの地図ですが、可能な範囲で当市の情報は入手に努めています。『ブルーマップ田無市1991』、『ブルーマップ保谷市1996』は、登記所備付けの公図とゼンリン住宅地図を重ね合わせて住居表示と地番が対照できる資料です。約3年おきに刊行されています。

空中写真・写真

国土地理院の空中写真データから西東京市域部分を購入し、図書館で所蔵しています。時代を経て変わる町の様子が見て取れます。

- 『田無市全域航空写真 1947〜1995』
- 『西東京市全域空中写真 1947〜1984』
- 『西東京市全域空中写真 1984〜2001』

この他、田無、保谷の各町・市全図や、『東京府北多摩郡保谷村土地宝典』（帝国市町村地図刊行会）等の資料もあります。

旧保谷中学校跡地 1969年
(現柳沢図書館・公民館の場所)



田無中学校 1964年頃
(現中央図書館と田無庁舎の場所)

ハンディキャップサービスの紹介

マルチメディアデイジーってしてる？

“マルチメディアデイジー”とは、活字による読書が困難な方のために、パソコン等を使って、音声と一緒に文字や画像が再生できるデジタル図書です。

デイジー(DAISY)…Digital Accessible Information SYstem

(通常の印刷物を読むことが困難な人々のためのデジタル図書の国際標準規格のこと。)

マルチメディアデイジーの特徴

- 文章を読み上げるスピードを変えられる
- 文字に色をつけられる
- 文字を自分の見やすい色に変えられる
- 文字の大きさを変えられる

マルチメディアデイジーをより多くの人に知ってもらうために、市内図書館で巡回展示をしています。



令和3年9月 谷戸図書館（上記写真左）

令和3年10月 保谷駅前図書館（上記写真右）

令和3年11月 柳沢図書館

令和4年2月 ひばりが丘図書館

今回の展示では、障害の有無に関わらず、どなたにもご利用いただけるものを紹介しています。“マルチメディアデイジー”とはどんな資料なのか!? 手に取り、利用し、知っていただきたいと思います!

マルチメディアデイジー、その他ハンディキャップサービス全般について知りたい方は、谷戸図書館（TEL 042-421-4545）までお問い合わせください。

西東京市図書館オンライン講演会

データを正しく読むための 「データリテラシー」入門 開催しました

令和3年10月16日(土)15:00~16:30

データの読み方を学ぶ機会というのは意外と少ないもの。スマートニュースメディア研究所の荻原和樹さんをお招きして、さまざまなデータを例に、読むときのポイントやデータを使った情報との向き合い方についてお話しいただきました。

講演会の冒頭で「明らかなウソや誤りのあるデータは少ない。実際に多いのは、ちょっとした誇張の方」と話された荻原さん。間違いを見抜こうとする人はある意味一番だましやす、0か1かで判断せず、ほかの解釈はないか考えることが大切であるというお話が印象的でした。

質疑応答では、情報全般に対するリテラシーの高め方やデータ可視化の学び方、子どもにデータの読み方を伝えるにはどうすればいいか等、幅広い質問に対してひとつひとつ丁寧に回答いただきました。

*図書館ホームページでは、講演会の詳しい報告と、データリテラシーに関連するブックリストを紹介しています。



図書館員の本棚

「図書室」

岸政彦 著
新潮社 2019年
978-4-1035-0722-2



古い公民館の小さな図書室で「私」は気に入った本を何度も何度も読み返したり、そこで出会った少年と人類が滅亡した世界でふたりだけで生きていくことを真剣に考えたりしていた。ひたむきで、素直で、温かくて、少年と過ごす時間は「私」のすべてだった。

やがて成長し大人になり、中年を過ぎて思い

出されるのは、あの冬の日のやわらかい光に満ちた図書室のこと。少年と過ごした時間のこと。

そんな記憶の断片が「私」の現在を肯定し、優しく照らしてくれる。

大人になるにつれ過ぎ去って忘れていた、大切な記憶を思い起こしてくれる一冊。

(図書館員O)

にんにんに西東京



西東京市図書館キャラクター
西都右京くん

第32回 「土地の歴史どこから探る？」

「むかし、この土地には何がありましたか？」という質問にお答えする時、最初にご紹介するのは地図類です。むかしという時代はいつを指すのが重要ですが、年代を追って変化が分かるよう、あるいは推測できるように、地域・行政資料のなかからご紹介しています。

絵図・地租改正絵図

市内の旧家に残されていた近世・近代の村絵図は、『田無市史』や『保谷市史』などの資料に掲載されています。「文化九年検地図」として市指定文化財とされている、「武州多摩郡田無村絵図」（1812）では、検地の場所・年代、屋敷、川、水路等が正確な測量のもと表示されています。

「武蔵国新座郡上保谷村絵図」、「武蔵国新座郡下保谷村絵図」、「武蔵国新座郡上保谷新田絵図」（以上1869）は、村役人が新政府の役所へ提出した絵図の下図で、小字ごとの屋敷や品等別畠面積、高反別、人数等が分かれます。保谷市教育委員会から複製が刊行、販売されました。



「文化九年検地図(武州多摩郡田無村絵図)」
(田無市史第3巻より)

1873年に公布された土地制度・課税制度改革のための地租改正条例により作られた地籍図の原点となる市指定文化財、「地租改正絵図」(田無)と、「大絵図」(保谷)があります。当時の市域全般に渡り一筆ごとに地番・地目・小家・道路・川・水路等が記入されています。原本は修復した後に、保管していますが、

西東京市図書館ホームページの「西東京市デジタルアーカイブ」で現在の地図と比較しながら詳細な部分までご覧いただけます。



▶「地租改正絵図」から引用



文理台公園から見た花火

住吉小学校 5年

私は6歳と4歳の子を持つ母で、西東京市の北端に住んでいる。西武池袋線の北側には図書館が無く、子育てを始めるまではほとんど利用してこなかった。

初めに通うようになったのは、はとさん文庫という北町家庭文庫。読み聞かせをしてもらえるし、好みそうな絵本を紹介してくれるので、絵本大好きな子供に育った。文字を読めるようになると、簡単な絵本は自分でも読むようになり、息を吸うように絵本の内容を吸収しているようにみえた。たくさんの本と出会わせてあげたいと思い、ひばりが丘図書館を頻繁に利用するようになった。

令和2年、新型コロナウイルスの感染が急速に広がり、緊急事態宣言が発令された。西東京市内でも、図書館や児童館は休館、公園の遊具はトラテープで巻かれて遊べない。幼稚園は休園、でも家では主人がリモート会議をするので騒ぐことはできない。遊びたい盛

りの小さい子を抱えて、過ごす場所が無く途方に暮れていた。

そんな自粛生活の中で、私がお子とホッと一息つける楽しい時間は絵本の読み聞かせだった。気持ちを込めて読むことでストレス発散になるし、子供は夢中になって喜んでくれた。家にある本を何度も読んでいたら、新

しい絵本が読みたくてたまらなくなり、図書館の再開を心待ちにしていたのをよく覚えている。

その後図書館は、段階的に制限付き開館に移行した。特にひばりが丘図書館では、規模を縮小し感染対策を講じたおはなし

会が開催されている。季節感のある絵本や紙芝居を読んでもらえるので、子供達はどんな話か予想しながらとても楽しみにしている。親の私も子供目線で楽しみ、癒されている。

私にとって図書館に通う事は、先の見えないコロナ禍の自粛生活における、ささやかな楽しみとなった。

利用者エッセイ

わたしと図書館

杉江 麻美